

## 財産形成期日指定定期預金（一般財形）規定

### 財形期日指定定期預金規定

#### 1. (本人確認)

- (1) 口座開設時には「犯罪による収益の移転防止に関する法律」(以下「犯罪収益移転防止法」といいます。)に定められた確認書類(店頭に掲示しています。)による本人確認をいたします。
- (2) 200万円を超える現金取引時には、本人確認をさせていただく場合があります。

#### 2. (預入れの方法等)

- (1) この預金の預入れは1口1,000円以上とし、年1回以上定期に事業主が預金者の給与から天引し、事業主または事務代行団体を通じて預入れるものとします。
- (2) この預金には、勤労者財産形成給付金および勤労者財産形成基金給付金を給付金支払機関、事業主または事務代行団体を通じて預入れできるものとします。
- (3) この預金については、通帳の発行に加え、財産形成期日指定定期預金の証(以下「契約の証」といいます。)を発行し、預入れの残高を6カ月に1回以上通知します。

#### 3. (預金の種類、期間等)

この預金は、預入日の1年後の応当日を据置期間満了日、3年後の応当日を最長預入期限とする1口毎の期日指定定期預金として預入れるものとします。

#### 4. (自動継続等)

- (1) この預金(第9条による一部解約後の残りの預金を含みます。)は、最長預入期限にその元利金の合計額および最長預入期限に新たな預入れがある場合は、これを合算した金額をもって前回と同じ期日指定定期預金に自動的に継続します。
- (2) 継続された預金についても前項と同様とします。
- (3) 継続を停止するときは最長預入期限(継続をしたときはその最長預入期限)までにその旨を申出てください。

#### 5. (預金の支払時期等)

- (1) この預金は、継続停止の申出があった場合に次項以下に定める満期日以後に支払います。
- (2) 満期日は、据置期間満了日から最長預入期限までの任意の日を指定することにより定めることができます。満期日を指定する場合は本店に対してその1カ月前までに通知を必要とします。なおこの預金の一部について満期日を定める場合には1万円以上の金額で指定して下さい。
- (3) 満期日は前項に準じてこの口座の預金残高の全部または一部に相当する金額について指定することができます。
- (4) 第2項または第3項による満期日の指定がない場合は最長預入期限を満期日とします。
- (5) 第2項または第3項により定められた満期日以後に解約されないまま1カ月を経過するか、またはその間に最長預入期限が到来したときは同項による満期日の指定はなかったものとし、引続き最長預入期限に自動継続として取扱います。

#### 6. (利息)

- (1) この預金の利息は預入日(継続をしたときはその継続日)から満期日(継続するときは最長預入期限)の前日までの日数について、預入日(継続をしたときはその継続日)現在における当行所定の次の利率を用いて1年複利の方法で計算します。
  - ① 預入日(または継続日)から満期日までの期間が1年以上2年未満の場合 当行所定の「2年未満」の利率
  - ② 預入日(または継続日)から満期日までの期間が2年以上の場合 当行所定の「2年以上」の利率
- (2) この預金の全部または一部について満期日を指定した場合の第1項の利息(継続を停止した場合の利息を含みます。)は満期日以後にこの預金とともに支払います。この場合の満期日以後の利息は満期日から解約日または書替継続日の前日までの日数について解約日または書替継続日における普通預金の利率によって計算します。
- (3) 継続された預金の利息についても第1項と同様の方法によります。
- (4) この預金を第9条第1項により満期日前に解約する場合、または第9条第5項、第6項、第7項の規定により解約する場合には、その利息は、預入日(継続をしたときは最後の継続日)から解約日の前日までの日数について次の預入期間に応じた利率(小数点第4位以下は切捨てます。ただし、解約日現在の普通預金利率を下回らないものとします。)によって計算し、この預金とともに支払います。

① 6カ月未満	解約日における普通預金の利率
② 6カ月以上1年未満	2年以上利率×40%
③ 1年以上1年6カ月未満	2年以上利率×50%
④ 1年6カ月以上2年未満	2年以上利率×60%
⑤ 2年以上2年6カ月未満	2年以上利率×70%
⑥ 2年6カ月以上3年未満	2年以上利率×90%
- (5) この預金の付利単位は1円とします。

#### 7. (取引の制限等)

- (1) 当行は、預金者の情報および具体的な取引の内容等を適切に把握するために、提出期限を指定して各種確認や資料の提出等を求めることがあります。預金者から正当な理由なく指定した期限までに回答いただけない場合には、預入れ、払戻し等の本規定に基づく取引の一部を制限する場合があります。
- (2) 日本国籍を保有せず本邦に居住している預金者は、在留資格および在留期間その他の必要な事項を届出てください。この場合において、在留期間が経過した場合は、新たに在留資格および在留期間その他の必要な事項の届出を求め、預金者が、当該依頼に正当な理由なく応じられない場合には、預入れ、払戻し等の本規定に基づく取引の一部を制限することがあります。
- (3) 前各項の各種確認や資料の提出の依頼に対する預金者の回答、具体的な取引の内容、預金者の説明内容およびその他の事情に照らして、マネー・ローンダリング、テロ資金供与、もしくは経済制裁関連法令等への抵触のおそれがあると認められる場合には、預入れ、払戻し等の本規定に基づく取引の一部を制限することがあります。
- (4) 前各項の定めにより取引の一部を制限し、当該取引におけるマネー・ローンダリング、テロ資金供与、もしくは経済制裁関係法令等への抵触のおそれが、一定期間解消されない場合には、当該取引の全部を制限することがあります。
- (5) 前各項の定めにより取引が制限された場合であっても、預金者からの説明等により、マネー・ローンダリング、テロ資金供与、または経済制裁関連法令等への抵触のおそれが合理的に解消されたと認められる場合は、当該取引の制限を解除するものとします。

#### 8. (反社会的勢力との取引拒絶)

この預金口座は、第9条第6項各号のいずれにも該当しない場合に利用することができ、第9条第6項各号の一にでも該当する場合には、当行はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

9. (預金の解約、書替継続)
- (1) この預金は、当行がやむを得ないと認める場合を除き、満期日前に解約することはできません。
  - (2) この預金を解約または書替継続するときは当行所定の払戻請求書に届出の印鑑により記名押印して、この契約の証とともに当店へ提出してください。
  - (3) この預金は解約する預金を指定せずに1万円以上の金額で払戻請求することができます。この場合1口ごとの元金累計額が払戻請求書記載の金額に達するまで次の各号の順序でこの預金を解約します。
    - ① 同一口座に複数の預金がある場合は預入日から解約日までの日数が多いものからとします。
    - ② 第1号で解約日においてすでに満期日が到来している預金がある場合は、その預金を優先して解約します。
  - (4) 前項の順序で最後に解約することとなった預金は次により解約します。
    - ① その預金が据置期間中の場合またはその預金の金額が1万円未満の場合はその預金全額
    - ② その預金が据置期間経過後でその預金の金額が1万円以上の場合は次の金額
      - イ. その預金にかかる払戻請求額が1万円未満の場合は1万円
      - ロ. その預金にかかる払戻請求額が1万円以上の場合はその払戻請求額
  - (5) 次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。なお、通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当行が解約の通知が届いた氏名、住所にあてて発信した時に解約されたものとします。
    - ① この預金口座の名義人が存在しないことが明らかになった場合または預金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合
    - ② この預金の預金者が第13条第1項に違反した場合
    - ③ この預金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、またはそのおそれがあると認められる場合
    - ④ この預金がマネー・ローンダリング、テロ資金供与、経済制裁関係法令等に抵触する取引に使用され、またはそのおそれがあると認められる場合
  - (6) 前項のほか、次の各号の一にでも該当し、預金者との取引を継続することが不適切である場合には、当行はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。なお、この解約によって生じた損害については、当行は責任を負いません。また、この解約により当行に損害が生じたときは、その損害額を支払ってください。
    - ① 預金口座開設申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合
    - ② 預金者が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」といいます。）に該当し、または次のいずれかに該当することが判明した場合
      - イ. 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
      - ロ. 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
      - ハ. 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
      - ニ. 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
      - ホ. 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
    - ③ 預金者が、自らまたは第三者を利用して次のいずれか一にでも該当する行為をした場合
      - イ. 暴力的な要求行為
      - ロ. 法的な責任を超えた不当な要求行為
      - ハ. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
      - ニ. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当行の信用を毀損し、または当行の業務を妨害する行為
      - ホ. その他前各号に準ずる行為
  - (7) 法令に基づく場合、当行はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。
10. (退職時の取扱い)
- 退職等の理由が生じた場合には、この預金は次により取扱います。
- (1) 当該理由が生じた日（以下「退職等の日」といいます。）において、預入日（継続したときは最後の継続日）から2年を経過していない預金については、第3条の規定にかかわらず、退職等の日の1年後の応当日に最長預入期限が到来するものとします。
  - (2) 退職等の日以後、最長預入期限（前項で定める最長預入期限を含みます。）における自動継続を停止します。
11. (届出事項の変更、契約の証の再発行等)
- (1) この契約の証や印鑑を失ったとき、または、印鑑、氏名、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当行に届出てください。この届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。
  - (2) この契約の証または印鑑を失った場合のこの預金の元利金の支払いまたは契約の証の再発行は、当行所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。
  - (3) 契約の証の再発行にあたっては、当行が定める再発行手数料をいただきます。
12. (印鑑照合)
- 払戻請求書、諸届その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましょう。例えば、それらの書類につき偽造、変造、その他の事故があってもそのために生じた損害については、当行は責任を負いません。
13. (譲渡、質入れの禁止)
- (1) この預金および契約の証は、譲渡または質入れすることはできません。
  - (2) 当行がやむをえないものと認めて質入れを承諾する場合には、当行所定の書式により行います。
14. (保険事故発生時における預金者からの相殺)
- (1) この預金は、満期日が未到来であっても、当行に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当行に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものと、相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当行に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当行に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。
  - (2) 前項により相殺する場合には、次の手続きによるものとします。
    - ① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充当の順序方法を指定のうえ、当行所定の払戻

請求書に届出の印鑑により記名押印して契約の証とともに、直ちに提出してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当行に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

- ② 前号の充当の指定のない場合には、当行の指定する順序方法により充当いたします。
  - ③ 第1号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当行は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。
  - (3) 第1項により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。
    - ① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日の前日までとして、利率は約定利率を適用するものとします。
    - ② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日までとして、利率、料率は当行の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当行の定めによるものとします。
  - (4) 第1項により相殺する場合の外国為替相場については当行の計算実行時の相場を適用するものとします。
  - (5) 第1項により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続きについて別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当行の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。
15. (成年後見人等の届出)
- (1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに成年後見人等の氏名その他必要な事項を書面によってお届けください。預金者の成年後見人等について、家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合も同様にお届けください。
  - (2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人が選任された場合には、直ちに任意後見人の氏名その他必要な事項を書面によってお届けください。
  - (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がされている場合にも、前2項と同様にお届けください。
  - (4) 前3項の届出事項に取り消しまたは変更等が生じた場合にも同様にお届けください。
  - (5) 前4項の届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。
16. (規定の変更等)
- (1) この規定の各条項その他の条件は、金融情勢の状況の変化その他相当の事由があると認められる場合には、当行ウェブサイトの掲載による公表その他相当の方法で周知することにより、変更できるものとします。
  - (2) 前項の変更は、公表等の際に定める適用開始日から適用されるものとします。

以 上